

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No. 39	タイトル 近江八幡市のPR戦略について	自治体名 近江八幡市
アイデア名 (公開)	近江八幡「世界の中心で学ぶ～子供たちの夏休み寺子屋教室」プロジェクト		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	立命館大学+近江八幡商工会議所		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	根津暁子	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズのCC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様でお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何を、どこです、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

<はじめに>

本COGのテーマは「地域課題を解決する」ですが、私たちは「これからの時代は、**地域も東京も、ローカルもニューヨークもなくなる。**



いや、すでになくなりつつあるのでは」という前提に立って、このプロジェクト案をスタートしました。つまり**中心と周辺の消滅**、どこもすべてがフラットな世界。しいて言えば、**今、自分のいるところが世界の中心**となる。それが、この提案プロジェクトの根底にある考え方です。

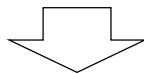
* 近江八幡市とヴォーリーズ

近江八幡を舞台に活躍した建築家、ヴォーリーズのサインのそばには、○が添えてあって中に点が打ってあります。ヴォーリーズはサインをするときには必ず、この○に点を添えたといいます。それは、**彼の暮らしたまち、近江八幡が世界の中心、という意味**だそうです。アメリカ生まれのヴォーリーズは、明治三十八年、二十五歳のとき、英語教師として、近江八幡の町にやってきました。今から百年以上前に太平洋を渡った人

であり、そして、日本全国に1000を超える建築を残した人でもあります。その**グローバル人、ヴォーリーズにとっての世界の中心が、彼の暮らした小さなまち近江八幡**だったので（写真は使用許諾済み）。

今、ヴォーリーズの○は現実に。

情報通信技術、流通の発達、中心と周辺を無くしてしまいました。情報も、そして物流も、空間と時間を超えて、行き交うことが当たり前になり、ヴォーリーズが100年前に言ったように、**現代は、「今、自分のいるところが世界の中心」**になったのです。



近江八幡「世界の中心で学ぶ～子供たちの夏休み寺子屋教室」プロジェクト

○概要～

夏休み期間の一週間程度（初回は3泊4日を予定）、全国から集まった小学生たちに、近江八幡ゆかりのヴォーリーズや近江商人、信長らの生き方・独立精神について学んでもらうとともに、琵琶湖でのマリンスポーツ体験、湖畔での自然環境学習、伝統的な町並み探索による歴史文化学習、地元の人々との交流など、**教室授業+体験学習の二本立て**で、充実した夏休みを過ごしてもらう。

○主役は～

寺子屋で学ぶのは、**全国から集まった子供たち**（小学校の高学年を想定、初回は20人程度からスタート、回を重ねるごとに徐々に増やしていく予定）。そして、それを**サポートする大学生や高校生と、地元近江八幡の地域の人々**。

○何を学ぶのか～

「君たちのいるところが世界の中心」～自主独立の精神、生き方

教室授業と体験学習を通じて、近江八幡市ならではの、自主独立の精神、生き方を学んでもらうと同時に、さまざまな機会を通じて、近江八幡市の持つ文化や歴史遺産、自然の魅力などについての理解を深めてもらう。

○学習メニュー案

<教室授業>

- ・**地元の人による、ヴォーリーズ、近江商人、信長（居城の安土は近江八幡市）らの生き方、考え方についての双方向型授業。**
- ・**外部招聘講師による「自主独立の精神・生き方」授業**
 - * 外部講師候補～藤森照信（建築家）、ピーターD. ピーダーセン（環境・CSRコンサルタント）、稲垣えみ子氏（朝日新聞元記者）など、近江八幡市と過去かかわりある人たち。

<体験学習>

琵琶湖上でのボート教室、西の湖河畔の環境学習、安土城跡歴史探索学習、近江商人屋敷地区での歴史文化学習、お菓子屋「たねや」でのお菓子作り体験学習など。

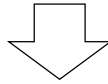
(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

<アイデアの論拠について>

近江八幡市は、今回の課題を

「近江八幡市への移住に興味や関心を持つ人をどのように拡大するか、また、その人たちがいかにして実際の移住に結びつけるかについて検討する必要がある」としています。



そうした中、近江八幡市は、市のかかげる「安寧のまちづくり基本構想」に活用すべき地域資源として、

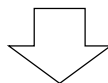
- ①水辺の豊かな自然環境・景観と歴史・文化資源、
- ②住民による自治と社会貢献の精神、
- ③災害に強い立地、
- ④域産業や経済を活性化する取組、
- ⑤福祉・医療、
- ⑥教育・保育、の6つの項目をかかげています。

～出所データ：「近江八幡市 安寧のまちづくり基本構想」

BUT

* 調査データ（関西圏出身の東京圏、関西圏在住者に対するWEB調査～「近江八幡市 安寧のまちづくり基本構想」より）によれば、**近江八幡市を「住んだことも、訪れたこともない」（55.2%）が半数以上を占めています。**

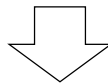
* また、調査データ（同上）によれば、近江八幡市の地域資源のうち、知られていたものは、第1位が「安土城跡」や「八幡堀」などの歴史・文化資源が多数現存する」（51.9%）、第2位が「国際商業都市として栄えた「八幡商人（近江商人）」の発祥の地である」（51.1%）、第3位が「近江米をはじめ、北之庄菜、豊浦ねぎ、近江牛、琵琶湖・沖島の湖魚、丁稚羊羹、丁字麩、赤こんにやくなどの、豊かな食材と食文化がある」（41.5%）の順となっていますが、**市が移住促進に向けた地域資源としてあげている教育資源に関する項目「地域に愛着と誇りを持つ子どもを育成するため、ふるさと学習の実施や伝統文化を学ぶ機会を設け、地域に根ざした特色ある教育がおこなわれている」は、わずか2.8%の認知度にとどまっています。**



そこで、私たちは、上記の要素①～⑥のいくつかは、**人々がじかに触れて、町について良く知ってもらうことが大切**、と考えました。

ただ、大都市や有名な観光地をのぞいて、よほどの縁や機会がないかぎり、ある町について深く知るチャンスはありません。

そのため、**数日間でも、そこで過ごしてみる、暮らしてみる機会の提供を。**



「世界の中心で学ぶ～子供たちの夏休み寺子屋教室」プロジェクト

<アイデアの論拠①>

参加の子供たちや、あわせて同伴や引率の父兄、ファミリーに、前掲の近江八幡市の地域資源を実際に体験してもらう機会（すべての項目の実体験は無理かもしれませんが、少なくとも近江八幡市のかかげる地域資源①②③⑥については可能かと考えます）を提供することによって、**近江八幡市に対するシンパシーの増大**を図ります。

さらに、子供たちや父兄、ファミリーによる、SNSなどを通じた体験中あるいは体験後の情報発信によって、近江八幡市の魅力

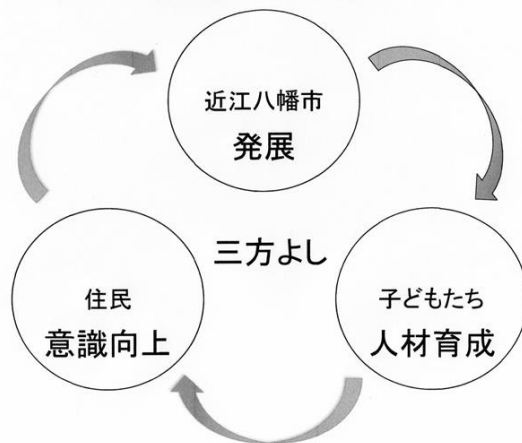
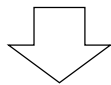
が全国に伝えられるものと考えます（サポート役の高校生・大学生、地元の人々による情報発信も期待できます）。また、全国に向けて「子供たちの夏休み寺子屋教室」の募集告知専用サイトを作成し、サイト上では、近江八幡市の地域資源や魅力を同時に発信します



<アイデアの論拠②>

外部の人々に、自分たちの町の魅力を伝え、また、移住促進にむずびつけていくには、

まず、地域の人々自身が、自分たちの町に誇りを持ち、自分たち自身の手で町を発展させようという気概、心づもりが大切だと考えます。自分のいる町、近江八幡市を世界の中心と考えたヴォーリーズの考え方を核として、近江商人や織田信長らの自主独立、進取の精神を子供たちに教えることで、それをサポートする地元の人々自身の勉強にもなり、意識改革につながるものと思われま



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

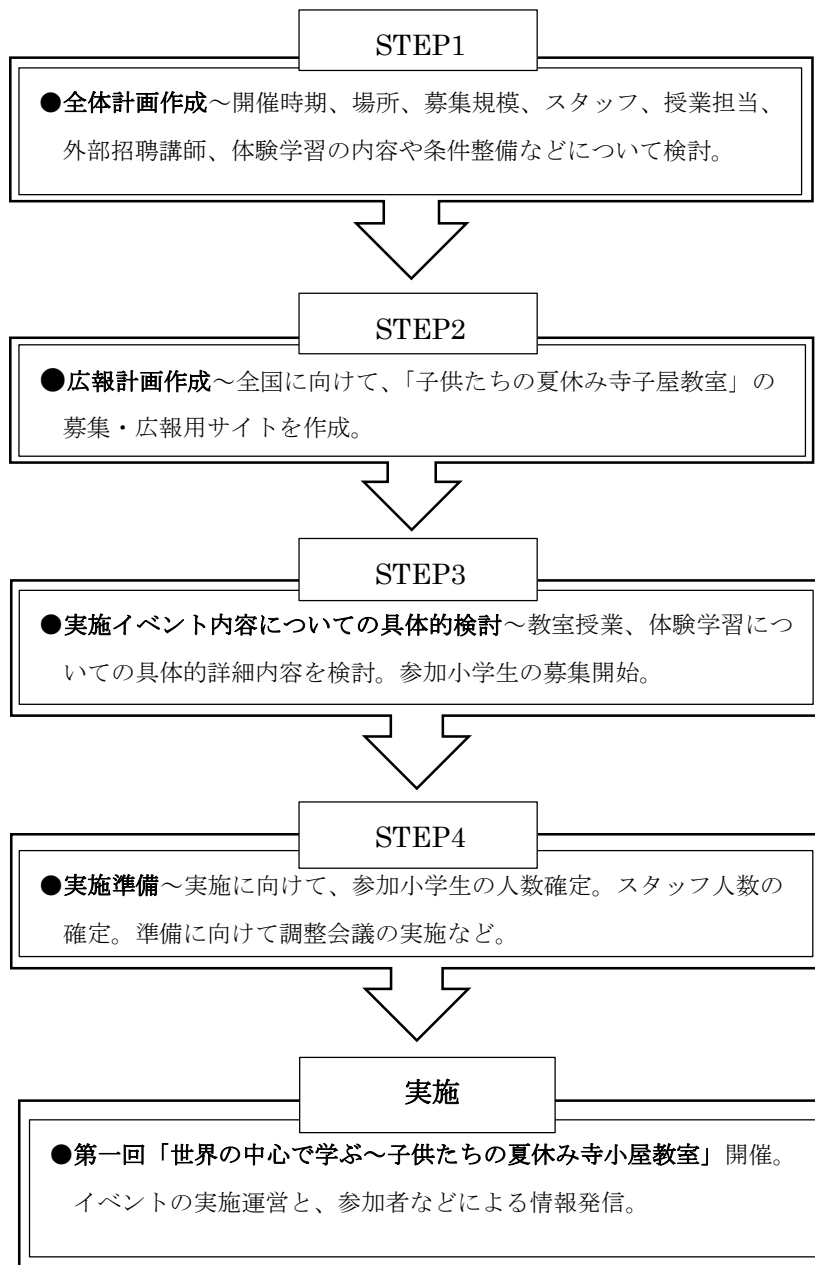
アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

<実現する主体>

立命館大学＋近江八幡商工会議所

* 立命館大学は、イベントの企画立案と、実際のイベント実施、準備の際の活動をボランティアで行う予定です。

<実現に至るプロセスとマイルストーン>



(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的にxxという制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

<アイデアのアピールポイント>

- イベント参加者・関係者が近江八幡市の地域資源に直に触れる機会の提供

「世界の中心で学ぶ～夏休みの子ども寺子屋教室」というイベントを通して、参加の子供たちをはじめ、父兄やファミリー、関係者たちが、近江八幡市の魅力や地域資源について、直に触れることができる点。

- イベント参加者・関係者SNSによる近江八幡市の地域資源・魅力情報の発信

参加の子供たちや父兄、ファミリー、関係者たちによる、体験中あるいは体験後のSNSなどを通じた情報発信によって、近江八幡市の魅力が全国に伝えられるという点。

- イベント告知・参加者募集の専用サイトによる近江八幡市の地域資源・魅力情報の発信

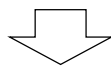
イベント告知と参加の子供たちを募る「世界の中心で学ぶ～夏休みの子ども寺子屋教室」専用サイト作成による、近江八幡市の地域資源や魅力情報の発信。

- 「自分たちの町が世界の中心」というイベントコンセプトによる地元の人々の意識向上

「自分たちの町が世界の中心」というイベントコンセプトを通じて、自分たちの町の発展を考えるには、自主独立の精神と気概こそがまず必要とされることを、町の人自身が学ぶという点。

- 「世界の中心、近江八幡」という斬新でかつ力強いブランドイメージの誕生

イベントの継続によって、「世界の中心、近江八幡」という、斬新で、かつ力強いイメージが近江八幡市に醸成されること。



近江八幡市の地域資源・魅力の伝播＋移住促進へ

<アイデア実現にあたっての想定される制約>

- 参加の子供たちが集まるかどうか
- イベントの実施運営、サイト作成、招聘講師などにかかる費用をどうするか
- イベント実施にあたってのボランティアサポーター（高校生・大学生）、地元の人々などの必要人員の確保が可能かどうか
- イベント実施にあたってのリスク管理（天候、事故、参加者の健康・安全面の確保など）
- イベントの実施内容が、参加の子供たちにとって満足のいくものになるかどうか
- 毎年の継続開催がうまくいくかどうか
- イベント実施が、近江八幡市の地域資源・魅力の伝播、および移住促進へと、最終的にうまくつながるかどうか